

全組合員の総決起で「60.3」を阻止しよう

12/9 第2回 支部代表報告



84. 12. 21
No. 1823

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二七二〇七

当局は臨調―監理委員会の「提言」を背景に、動労「本部」革マルの裏切りと屈服、国労中央の弱さを突いて、問答無用の強硬姿勢で臨んできている。「60・3ダイ改」をめぐる闘いは、きわめて重大な段階にさしかかっている。動労千葉は十二月十九日、第二回支部代表者会議を開催し、組合要求獲得にむけ全組合員の怒りを結集して闘い、「60・3ダイ改」の事前作業である「線見」の強行を許さぬ取り組みについて、次の通り決定した。

「60・3ダイ改」阻止を中心とする当面の取り組みについて

I 「線見」をめぐる情勢と取り組み

① 「線見」問題とは、外周区の東京乗り入れ、蘇我機関支区廃止等の提案に基づいて発生しており、これを認めることは第一に、「蘇我派出化」「成田支区化」をはじめとする将来の基地構想、第二に、「60・3」全体の構図、第三に、内達―動乗改悪協定の具体的実施の今後のスタイルを決定づけ、「60・3」攻撃に道を開くものである。

② 動労千葉は第十回定期委員会において、「：『60・3』攻撃にふんばり、闘いぬぎ、団結を強化できるならば、分割・民営化阻止―中曾根内閣打倒へむけた展望を大きく切り拓くことができる。われわれはこの闘いを、国鉄労働運動解体攻撃粉碎・動乗制度改悪阻止・首切り『三本柱』粉碎の闘いとして、第二の『81・3』を辞さず闘うことを通して、より一層の団結―組織強化をかちとり、動労『本部』革マル追放―掃を実現する」ことを確認してきた。

③ こうした立場からわれわれは、「動乗改悪協定」という不当な条件を強制されつつも、これとギリギリに対決して、「蘇我派出化」「成田支区化」「東京乗り入れ」等を許さないための「組合案Bダイヤ」を作成する一方、団体交渉において労働条件に関する徹底した追及をおこなってきた。ところが当局は、「全国横ならび」を唯一の口実に十一月十五日に「十二月十五日からの線見実施」を提案し、十二月十四日に「十二月二〇日から実施」の修正提案をおこない、団体交渉要求を無視して「線見」を強行しようとしている。

④ 現在、すでに全国の大部分の地方局で、動労「本部」革マルの裏切りを背景に「線見」がおこなわれているという厳しい状況にある。動労千葉は、「線見」強行の不当性を追及し、団体交渉の継続積み上げを要求し、強行に対しては第三者機関（公労委）の活用も含め、あらゆる戦術を駆使して闘う。

⑤ 政府、国鉄当局のすさまじい攻撃のまえに指導部が屈服することを通して、国鉄労働運動の生産点での攻防戦は苦闘を強いられ、日本労働運動総

体が「敗北主義」の混迷につき落されようとしている。

しかし、動労千葉は「三里塚を闘う労働運動」路線のもと、労働運動の原則を守りぬぎ、「3・25」10・10二度にもわたる五割動員を実現する中で、当局の攻撃をはね返す職場の力関係を構築してきた。「線見」「基地縮小」をあくまで認めないとの立場の「動労千葉が作ったBダイヤ」―全国で唯一の組合案Bダイヤを職場・生産点で、団体交渉の場で全組合員の主体的な闘いの武器として使いこなし、ねばり強く闘いぬいでいこう。

⑤ われわれは、おしよせる反動に抗し、十二月段階の闘いを貫徹し、来年一月十二日の「団結旗開き」を起点に、情勢の推移に対応した機関の開催・職場からの総決起体制の強化等々、あらゆる戦術を駆使して闘い、国労共闘をも強化し、全国の国鉄労働者の決起をよびかけ、「85春闘」「3・24三里塚」の闘いと結合して「60・3」阻止を闘いぬく。

II 車両検査周期の延伸及び検査体系の変更について

六月二十九日に提案された「車両検査周期の延伸及び検査体系の変更について」は、運転保安・要員合理化・作業安全等々、あらゆる面で問題があり、検修対策委員会を発足させ団体交渉を展開してきた。十二月十四日、当局は「十二月二十五日は対策及び規定改正について整理したい」との口頭通告をおこない、中央事案として集約の山場を迎えているが、検修対策委員会を中心に取り組みを強化する。

III 「三本柱」に関する取り組みについて

退職条件、在職条件に関する（別紙1）については、十月十日「有効期限の定めのない協約」扱いとすることを通告してきたが、動労千葉は十二月七日、「申第九号」をもって、「従来通りの扱いとするよう申し入れ、団体交渉をおこなってきた。動労「本部」革マルが十二月二四日を期して、片仕切り」の裏切りを強行せんとしている中で、当局が片仕切りする場合は第三者機関を活用する方向で取り組みを強化し、あらゆる戦術を駆使して闘いの徹底をはかることとする。（以上）